

インターバンクの声（2015 年 6 月 9 日）

昨日、東京時間の終盤、米オバマ大統領が「強いドルは問題だ」と発言したとの報道が伝わった後、そしてニューヨーク時間の昼前までにも2度ほど125円でドルが反発していたとあって、ドルをショートにしていた人達や、少しでも安くドルを買いたいと思っていた人達は気が気でなかったに違いない。あれだけドルの上値が重かった東京時間や、後に否定されたとは言え、米オバマ大統領がドル高けん制発言をしたとの噂も飛び交うなど、この一週間ほどの円安に対する警戒感の強まりを考慮すれば、ある程度の調整があって然るべきと想定するのも無理はなかった。ただ、その想いに対し相場が3度もほぼ同じレベルで跳ね返されれば不安になるものだ。ここで2時間ほど我慢できた人達には、124円台それも前半水準でドルが買える時が巡ってくるようになったが、問題はこのあとさらに安くドルが買える場面が巡ってくるのかどうかだ。次に相場が大きく動くきっかけになりそうなのは木曜日の米小売売上高の発表だが、今日を含めて丸々三日間相場が動かないわけではないので、それまでの相場観を考えなくてはならない。ニューヨーク市場でドル売り調整が進み過ぎたと思えば反発を狙っても良いが、ひとまず東京時間の午前中に発表される中国の経済指標の発表を待ちたい。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。